

# げんでん ふれあい 福井

2015 SUMMER 第49号



ちいきのぶんかかつどう ~財団助成事業の紹介~

第18回 ふくい風花隨筆文学賞 入賞作品紹介

ふるさと福井「豊臣秀吉の近臣・敦賀城主  
人物シリーズ」

大谷 吉継(一)」

## 感性について

文／吉田 豊一

筆者プロフィール



吉田 豊一  
Toyokazu Yoshida

陶芸家。  
昭和39年、越前町（旧織田町）生まれ。京都芸術短期大学陶芸科卒業。  
県美展福井県知事賞、日本現代工芸美術展現代工芸賞、日展入選など受賞多数。  
平成13年げんでん芸術新人賞、平成23年越前町文化功労賞、同年福井県文化奨励賞、平成26年福井県伝統的工芸優秀継承者知事表彰。

（社）日展会友、（社）日本現代工芸美術家協会本会員。

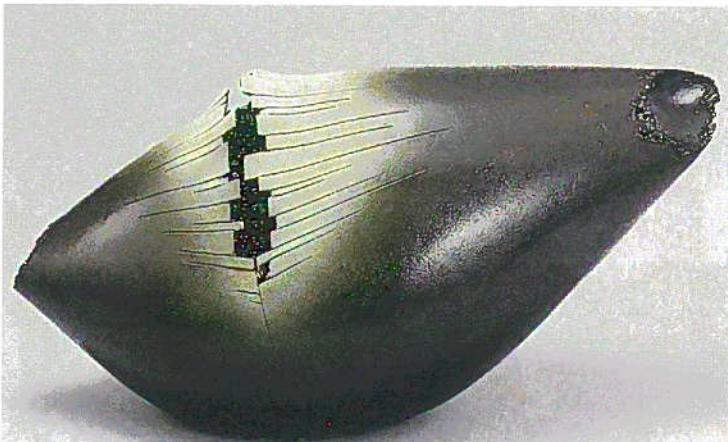
私が陶芸を生業として30年が過ぎました。この道に導いてくださった恩師との出会いや、今も職人として、また、作家としてご指導いただいている方々との出会いが今の自分の宝だと思います。

私が所属する越前焼工業協同組合の取組みで、子供達に地域の産業である越前焼を知つてもらい、後継者を育成しようという事業を行っています。その中で子供達に接していく最近気になることがあります。例えば、指導している途中に子供達に意見を求める時、返つてくる言葉が「別に……」の一言たり、ただ黙つて首をかしげるだけの時があります。この現象の理由をひとつに絞り込んで述べることはなかなか難しいとは思いますが、感性の乏しさがその要因のひとつになつてゐることは否めないと感じています。

パソコン等の発達で、考える力、また、0から物を作り上げる機会が少なくなつていて、な気がします。美しい物や風景を見て感動したり、本読んで感銘を受けたり、鋭く豊かな感性を持つた方とお話ししたり、今の子供達は忙しくてなかなか余裕がないのだと思います。でも、そのような物の見方、考え方、感じ方に触れた時、子供自身も磨かれ育つていいのではないかと思います。

私自身も、ひとつひとつの言葉や物等から多様な価値観を引き出し、こんな考えもある

んだな、あんな生き方もあるんだなと感じながら、感性を深めていける人間になりたいと思つています。また、陶芸を通して、自分の手で物を作り上げることの素晴らしさを子供達に伝えたいと思っています。



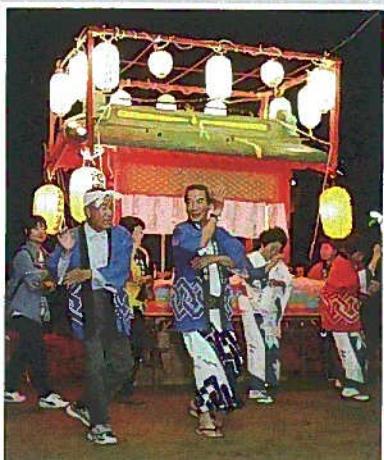
現代工芸本会員記念賞「内なる思い」 吉田 豊一

## 目次 49

●卷頭エッセイ 「感性について」	2
●ちいきのぶんかかつどう ～財団助成事業の紹介～	3
●第18回 ふくい風花隨筆文学賞 入賞作品紹介	4～5
●ふるさと福井人物シリーズ 「豊臣秀吉の近臣・敦賀城主 大谷吉継（一）」	6～7
●ふくいの伝統行事シリーズ 「池田追分け」	8
●若狭の食彩（四） 「伝統行事の食と信仰」	9
●敦賀市立博物館 誌上ギャラリー／43	10
●情報ファイル	11

## 表紙の説明

池田町稻荷の惣社須波阿須疑神社の春の例大祭「池田大祭」は、6月9日から11日にかけて行われ、宵宮の6月9日夜の午後7時30分から境内の広場で福井県指定無形民俗文化財の「池田追分け」が池田民謡保存会によって古式ゆかしく奉納されます。



### 財団シンボルマーク



公益財団法人「げんでんふれあい福井財団」は、福井県の文化振興とふれあいとゆとりのある地域づくりに寄与することを目的に、県民のみなさんとの絆を大切にした広報誌を目指します。

# ちいきのぶんかかつどう

（財団助成事業の紹介）

当財団では毎年、県内の文化団体等の事業活動に助成を行っています。

助成事業の中から紹介します。

今年は、幕末の勤皇志士「梅田雲浜」

の生誕二百年に当たります。これを記念していろいろな催しが計画されていますが、当財団の助成事業の中から2つの事業を紹介します。

## 「明治維新の扉を拓いた 梅田雲浜の実像」刊行

小浜市郷土研究会（会長 村上正一さん）が、「生誕二百年を迎える人々に、先生の大義や生きざまを偲び、「故を温ねて新しきを知る」よすがとしていただくことを願い」刊行しました。雲浜の生涯や当時の時代背景を事蹟、史料の写真とともに詳しく紹介、雲浜と関わった人々の評価などを引用して、その実像に迫っています。会では、「私たちの取り組みは小さな一步ですが、郷土の先達・大義に殉じた志士梅田雲浜への篤き思いが、次なる大きな輪となり広がることを願っています。」と言つておられます。

### 【お問い合わせ】

☎ 0770-52-3650

小浜市郷土研究会

編集委員長 綱本恒治郎さん

今朝死別與生別  
(今朝死別と生別をかぬ)  
(唯有皇天后土知るのみ有り)

梅田雲浜顕彰（生誕二百年記念）

## 全国吟詠大会

雲浜が好んだ詩吟を通して雲浜の功績を称え、末永く後世に伝え広めようと、小浜市詩吟連盟が中心となつて平成13年から毎年開催されています。今年は生誕二百年と顕彰大会15周年の記念事業として、雲浜の人物像を紹介する「構成吟」の発表など内容を充実し、11月14日(土)に小浜市文化会館大ホールで開催されます。

### 【お問い合わせ】

☎ 0770-57-1761

実行委員会 宮本さん

## 訣別の詩

梅田雲浜

妻臥病牀児叫飢  
(妻は病牀に臥し児は飢に泣く)  
挺身直欲當戎夷  
(身を挺して直ちに戎夷を  
払わんと欲す)



梅田雲浜像（小浜市中央公園）

《梅田雲浜（うめだうんぴん）》

君が代を思ふ心の一すぢに  
吾身ありとも思はざりけり  
（辞世の歌）

文化2年（1815年）、若狭国小浜で生まれる。父は小浜藩士。小浜の海浜の名をとつて号を「雲浜」とした。小浜藩校「順造館」、京都の「望楠軒」、江戸で朱子学の一派である山崎闇斎の門下で学ぶ。天保12年（1841年）27歳で大津に「湖南塾」を開く。天保14年（1843年）29歳で「望楠軒」の講師となる。嘉永6年（1853年）39歳の時に米国使節ペリーが浦賀に来航すると、水戸藩、福井藩、長州藩など各地の尊王攘夷を求める志士の先鋒となつて活動、幕政を批判した。安政5年（1858年）大老井伊直弼の「安政の大獄」で捕縛され、安政6年（1859年）獄中で病死した。享年45。

「吉田松陰は、雲浜のことを一言で『靖献遺言』で固めたような男」と評した。この靖献遺言という本は、……道義を重んじた、忠義のために一身をささげた歴史上の人物を描いたもので、……雲浜はこの本のヒーローとして登場する「忠臣」そのものだと評したのである。「京都で雲浜の世話をなつた西郷隆盛は、中国の名刀も、日本の名刀も雲浜の鋭さにはかなわぬ、といい、……画家としても有名な富岡鉄斎は、まことに第一流の人といえるのは、当節、雲浜先生のみ、とまでいきつてゐる。」（村上利夫著「梅田雲浜の人物像」）

# 第18回 ふくい風花隨筆文学賞 入賞作品紹介

「ふくい風花隨筆文学賞」(同賞実行委員会  
主催、げんでんふれあい福井財団特別協賛)  
の受賞者、3月5日(土)開催

的ホールで行われました。この文学賞は福井県出身の芥川賞作家津村節子さんの隨筆「風花の街から」にちなんだ賞で平成9年度に創設、毎年国内外から多くの作品が寄せられていました。今回から、若い世代の創作芸活動を推進するため、「U30賞」（30歳未満の優秀作）が創設されました。

当財団では、文化・芸術を愛する県民風土を高める顕彰事業として、毎年特別協賛し、「げんでんふれあい福井財團賞」を贈呈しています。



一般の部（応募作品数1350編）

▽『最優秀賞・福井県知事賞』南川亞樹子（『優秀賞・げんやんぶれあい福井財団賞』）

▽『浪絃一（大阪府）「愛しのはず歌」』

▽『優秀賞・福井新聞社賞』飯田みゆき（『優秀賞・福井仁愛学園賞』）高森美由紀（『優秀賞・J30賞』）宇野陽香（『愛知県』）「あ

▽『優秀賞・実行委員会賞』佐藤隆定（岐阜）

高校生の部（応募作品数2589編）

- ▼『最優秀賞・福井県知事賞』南川亞樹子（徳島県）「マフラーの香り」  
▼『優秀賞・げんでんふれあい福井財団賞』打浪紘一（大阪府）「愛しのはずれ歌」  
▼『優秀賞・福井新聞社賞』飯田みゆき（静岡県）「初恋の味」  
▼『優秀賞・福井仁愛学園賞』高森美由紀（青森県）「お手つちゃんと」  
▼『優秀賞・J.O賞』宇野陽香（愛知県）「あたたかかな雪」  
▼『優秀賞・実行委員会賞』佐藤隆定（岐阜県）「足音を聞きながら」  
校生の部（応募作品数2589編）  
▼『最優秀賞・福井県知事賞』笠松彩夏（武生商業高校）「菜飯」  
▼『優秀賞・げんでんふれあい福井財団賞』向野一夏（三国高校）「だい」  
▼『優秀賞・福井新聞社賞』三浦理恵子（仁愛女子高校）「神様のプレゼントとそれに伴う味の変化」  
▼『優秀賞・福井仁愛学園賞』敦賀ゆい（鯖江高校定期制）「再入学」  
▼『優秀賞・実行委員会賞』山内野乃子（福井商業高校）「命を迎える」  
▼『優秀賞・実行委員会賞』吉田遙香（藤島高校）「蜜柑」

※入賞作品は、「ふくい風花隨筆文学賞」ホームページ（福井県ふるさと文学館ホームページ内）に掲載されております。また、作品集をご希望の方は、実行委員会事務局（福井県ふるさと文学館内（☎0776-33-8866）までお問い合わせください。



県立図書館 多目的ホール  
津村節子先生・西川一誠福井県知事（前列中央）  
受賞者・審査委員・実行委員会・来賓の皆さん

一般の部

打浪 紘一さん  
(大阪府)

れ、出納、普通預金、定期為替、庶務貸付の各係がチームとなつて、何か余興をやるのが恒例となつていた。

外交係は各チームの世話役として、出し物を決め、練習の準備を担当するのである。

入行して二年目の私は庶務貸付チームの担当になつたが、正直気が重かつた。他の係には若い女子行員が多く華やかなのに、庶務貸付係はほとんど五十歳前後の先輩で占められており、若い女子行員と言えば二十一歳の越栄さんただ一人だつたのだ。

もともと庶務貸付係は預金部門に比べて地味な部署だ。融資という重要事項を扱うため、経験豊かなベテラン行員が配置されるのが常である。また、借り入れの相談に来店するお客様には、うつむき加減な人もいる。そんなお客様の接待には、

店で一番もの静かで控え目な越栄さんがうつてつけて、貸付係に配置されたのもうなずけるのだ。

だが、こと忘年会となるとそれでは困るのだ。メンバーの最年長は庶務主任の松田信三さん（五十二歳）、次いで貸付主任の小西康子さん（四十五歳）以下、谷川邦子さん（四十一歳）、西重雄さん（四十二歳）、広松民江さん（四十歳）、そして越栄道代さん（二十一歳）と、おじさんおばさんが主力なのである。

支店長から出来栄えにより金一封が出ると聞いて、各チームの練習熱は一気に高まつた。

出納係はコーラス、普通預金係は寸劇定期為替係はマジックと決まったが、私のチームは「打浪君にまかせるよ」と言つたきりだ。

そんな時、たまたま上演していた

ミュージカル「レ・ミゼラブル」をみて、いたく感動した私は、あろうことか「ミュージカル」をやりますとみんなに宣言してしまったのだ。

台本は私が作った。挿入歌はみんながよく知っている童話や歌謡曲の替え歌にした。あとは簡単な演技をしてもらえばミュージカルらしくなると思ったのである。だが、その考えは甘かった。練習を始めて分かったのだが、この年代の先輩たちはみんな恥ずかしがりで、譲り合うばかりで、ちつとも前に出て歌おうとしたものだったのである。

ストーリーは単純で、一人の新人女子行員が、色々な失敗を重ねながらも、周囲の励ましで一人前に成長する姿を描い

いわば、自分たちの歩みを、再現すればいいのだが、セリフは棒読み、演技は

ストーリーは単純で、一人の新人女子行員が、色々な失敗を重ねながらも、周囲の励まして、一人前に成長する姿を描いたものだった。

いわば、自分たちの歩みを、再現すればいいのだが、セリフは棒読み、演技は

まるでロボットのようなぎこちない動きになってしまった。なんとかなりへんやろか)

お酒が入ると大声で歌つ松田さんの声は消え入るようで、女性陣も蚊の羽音程度の音量しか出ない。これはミュージカルではない。「あきません、そんなんでは」と私がつい声を大きくすると、小西さんから「そんなんこと言うことも、私たちミュージカルなんて初めてやもんなあ。無理やわ」とやんわり反撃される。若造の言うことなどまじめに聞けるか、と反発されたようでは私は絶句し傷ついた。

やもなく、おとなしい越栄さんに、と

にかく大きな声で歌ってくれと頼んだ。彼女はもじもじしていたが、意を決したかのようにびっくりするような大きな声で歌い始めた。彼女なりに私の窮状を見かねたのだろう。

その歌は完全に音程をはずれしており、ひどいものだったが、「越栄さん中々いいよ。それで頼むよ」と私は彼女を励ました。やがて、無情にも忘年会の日がやってきた。

プログラムを見た先輩に、「これは打浪君の演出やな。楽しみや」などと言わ私は逃げ出したい気分だった。

各チームとも出来栄えは中々のもので、

会場には拍手が湧き上がった。

いいよい私のチームの出番が来た。大事な最初の場面、道端に倒れた老女を、通りかかった女子行員が助けるシーンだ。

隣の部屋から大正琴の音色が響いてくる。六十八歳の妻が一年前から習い始めたのだ。時折音程をはずれ、リズムが乱れる。

舞臺のそでで見ていた私は胸にこみ上げるものを見られなかつた。入社してわずか二年の若造が書いたつたない台本を、大先輩たちが一生懸命演じてくれてゐる。その喜びは預金を獲得できた時よりはるかに大きかつた。

最後に越栄さんが、完全な調子はすれながら堂々と「夜明けの歌」を歌いあげ、私たちのチームはやんやの喝采を受けたのである。

麟の部屋から大正琴の音色が響いてくる。六十八歳の妻が一年前から習い始めたのだ。妻のたどたどしい演奏を聴くたびに、私の脳裏には若き日のよい思い出が蘇るのである。

## 高校生の部 優秀賞・げんでんふれあい 福井財団賞 「だいすき」



向野一夏さん  
(三国高校)

### 高校生の部

優秀賞・げんでんふれあい  
福井財団賞

「だいすき」

向野一夏さん  
(三国高校)

「ただいま、かつちゃんちゃんと勉強してたかあ。」

用事を済ませ帰ってきた母が、そう言いながら二階へ上つてきた。私は、慌てて携帯を横に置き、机の上に閉じてあつた

ノートと教科書を開き、鉛筆を持った。これで大丈夫と思ったのに、戸を開けた

母に、妹は駆け寄り言つた。「かつちゃん、携帯ばつかで、何も勉強してなかつたよお。」

見る見る怒つた顔になつた母は、机の上のノートを確認して、携帯を取り上げ降りていつた。三時間ほど前から妹は、してなかつたよお。」「しおり作ろう。かわいいの作つてえ。」

「かっちゃん、歯みがきしてえ。」「かっちゃん、一緒に寝よう。」「かっちゃん、おやすみ。」

全て無視を通した。保育園から持ち帰つたはしやコップも、洗うのは私の役割りだつたが無視して寝た。次の朝も、「かつちゃん、おはよう。」「かつちゃん、ご飯おいしいね。」「かつちゃん、いつてらつしゃーい。」

学校から帰ると、テーブルにはオムライスやピザ、グラタン、真ん中にはケーキが並んでいた。今日は六回目の妹の誕生日だ。

「ハッピーバースデイトゥユー、ハッピーバースデイトゥユー、ひとえ、ハッピーバースデイトゥ、ひとえ六才おめでとう。」「はい、ひとえ六才おめでとう。母と弟が歌い、妹がフーとろうそくの火を消した。母が妹の好きなキャラクターのノートとえんぴつをフレゼントした。弟はお小遣いで買ったメダルをフレゼントした。妹はうれしそうに飛び跳ねて喜んでいた。そして、たくさんの絵と大切な言葉を書いたんだ。

「これかつちやんに、ひとえからフレゼント。」「ごめんねだいすき」と、ひとえが笑つ

て、元気いっぱいの声が続く。だけど今は、足音だけだつた。そつと振り返つてみると、妹は黙つてたたずんでいた。

学校から帰ると、テープルにはオムライスやピザ、グラタン、真ん中にはケーキが並んでいた。今日は六回目の妹の誕生日だ。

「かつちゃん、泣くな。辛いんか？」

「かつちゃん暗だつた心は、太陽が上つたように明るくポカポカになつた。そして氣付いた。無視している間、怒つてたはずの私が、なぜだか淋しかつた理由。それは、「かつちゃん」と元気百倍で呼んでくれる妹を、私は大好きだつたからなんだ。

今、私のポケットには妹への誕生日プレゼントが入つていて。涙が止まつたから渡そうと思つ。学校で一生懸命作つた、かつちゃん特製しおり。たくさんの絵と大切な言葉を書いたんだ。

「ごめんねだいすき」と、ひとえが笑つ

て、元気いっぱいの声が続く。だけど今は、足音だけだつた。そつと振り返つてみると、妹は黙つてたたずんでいた。

学校から帰ると、テーブルにはオムライスやピザ、グラタン、真ん中にはケーキが並んでいた。今日は六回目の妹の誕生日だ。

「これかつちやんに、ひとえからフレゼント。」「ごめんねだいすき」と、ひとえが笑つ

て、元気いっぱいの声が続く。だけど今は、足音だけだつた。そつと振り返つてみると、妹は黙つてたたずんでいた。

学校から帰ると、テーブルにはオムライスやピザ、グラタン、真ん

# ふるさと福井人物シリーズ

豊臣秀吉の近臣・敦賀城主

## 大谷吉継

(一)

文/外岡慎一郎

筆者プロフィール



外岡 慎一郎  
Shinichiro Tonooka

《筆者略歴》

1954年生 神奈川県出身。中央大学大学院文学研究科(国史学)修了。元敦賀短期大学教授(1986/4~2013/3)。

現職:敦賀市立博物館長(2013/4~)。社会的活動(現職):日本古文書学会理事、福井県文化財保護審議会委員、福井県立若狭歴史博物館協議会委員など。

《おもな著書類(近年分)》

- 武家権力と使節道行(単著) 同成社 2015年
- 街道の日本史31・近江若狭と湖の道(分担執筆) 吉川弘文館 2003年
- わかざ美浜町誌 美浜の歴史1 ふりかえる 美浜(分担執筆) 福井県美浜町 2010年
- 大谷吉継のすべて(分担執筆) 新人物往来社(現カドカワ) 2012年
- 大谷吉継と敦賀(敦賀論叢15) 2000年
- 青蓮院坊官大谷家と大谷吉継(敦賀論叢17) 2002年
- 天正地図と越前・若狭(敦賀論叢26) 2012年
- 越前・若狭の歴史地図・津波(敦賀論叢27) 2013年
- 安政東南海地震と敦賀(敦賀市立博物館研究紀要28) 2014年

### 大谷吉継、人気の源泉

大谷吉継。昨今盛んな戦国武将の人気ランキングではベスト10入りの常連である。ハンセン病ともいわれる不治の病とともに生き、親友石田三成の決意の固いことを知つて、関ヶ原合戦とともに戦い、戦場で命を散らした高潔さが人気の理由ともされる。

しかし、吉継に理想の武将像をもとめ、称賛の言葉で彩る風潮は今に始まつたことではない。関ヶ原合戦を知らない世代が社会の中核となつた17世紀の後半、今や盤石の幕藩体制を整えた徳川氏にかつて戦いを挑み亡んでいった武将たちにスポットライトがあたられてくる。その代表格ともいえる存在が、真田信繁であり大谷吉継であった。ただ、真田信繁は幸村、大谷吉継は吉隆と、それぞれ新しい名をあたえられての再登場である。

改名の理由を示す資料はない。「実名敬避俗」といつて、身分のある人物や死者を実名(本名)で呼ばない習慣があることや、実名がもつ靈的な力(諱)

／忌み名)への配慮、あるいは徳川の世であることを意識しての仕儀と理解することはできる。しかし、なぜ吉隆であり幸村であったのか、わからない。

吉継の武勇を伝え人柄を称える伝記類に記される名はほぼすべて吉隆である。関ヶ原合戦に吉継が陣所とした地の一角に吉継の墓所があるが、その標柱に彫りこまれる名も吉隆である。その死後、吉継は吉隆という名で新たなる場をあたえられ、そのなかで伝説の武将化されていくのである。



大谷吉継墓(関ヶ原町)

### 関ヶ原合戦、「吉継伝説」の誕生

敦賀市立博物館の収蔵品に六曲一隻の「関ヶ原合戦図屏風」がある。今年2015年が徳川家康没後400年に当たるということで、東京・京都・福岡を巡回する『大関ヶ原展』が催されているが、これに請われて出展中である。幕末～明治初期を生きた絵師菊池容斎が安政元(1854)年に描いた作品で、「前賢故実」など歴史画を得意とした容斎の力がいかんなく發揮されている。金地に鮮やかな色彩が印象的である。また、江戸幕末に、徳川政権の起点である関ヶ原合戦を題材とする屏風を求める機運があつたとすればこれも興味深い。

もちろん吉継の姿も描かれている。敗戦の報を得て自刃の時を悟り、その決意を家臣たちに伝えていたる図と見える。関ヶ原戦を主題とする屏風、絵巻などの絵画作品は多い。しかし、それらに描かれる吉継は決まってこの場面、この姿である。

合戦を題材とする絵画作品は、注文



『関ヶ原合戦図屏風』の大谷吉継(敦賀市立博物館所蔵)

主の意向、たとえば先祖の戦いぶりを中央に描くなど構図の問題を別にする」と、一般に合戦記などの文字資料に記された武将たちの姿を絵にするという方法で描かれる。関ヶ原合戦に関する文字資料を読み込んで、吉継が命の取り合いをする戦場で活躍する姿は記されていない。ただ、戦況を伝える家臣の言葉に耳を傾け、敗戦を知り自刃する姿が記されるのみである。関ヶ原合戦を描く絵画作品で描かれる吉継の姿がステレオタイプ化する背景にはこうした事情がある。

吉継が実戦に参加しなかつた理由については、すでに病状は重篤であり。乗馬もかなはず、視力も失っていたからとされる。しかし頭脳は明晰であり、石田三成から挙兵の決意を聞かされた折には、戦力の劣勢、三成の人望の乏しさを指摘して諫止を試みたと伝えられ、開戦直前まで調略を試みる徳川方には丁重な断りをいれていたようだ。

いずれにしても合戦に至る過程での吉継の言動について批判的に記す記録はない。馬上で切腹して果てたと、おそらく事実には反するだろう伝記が複数あるのも、武将の理想像を吉継に求める想いの反映であろう。

こうして「吉継伝説」の骨子が組み上げられ、読み物、語りを通じて普及していったのである。



大谷吉継陣所跡碑

## 吉継の出自をめぐる謎

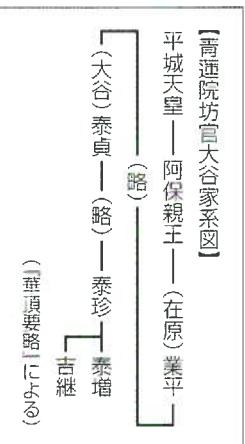
17世紀の後半期以降、大谷吉隆として称賛の言葉に包まれた吉継であるが、吉継がいつ、どこで生まれたのか、鮮明にはなっていない。ただ、母親が豊臣秀吉正室（お姫、高台院）付きの侍女で「東（ひがし）」と呼ばれた女性であることは判明している。

また、生年についても、かつては関ヶ原で自刃した年齢を42歳と伝える合戦記の記事を根拠に永禄2（1559）年説が唱えられていたが、近年、京都吉田神社の神主の日記（『兼見卿記』）に文禄元（1592）年に28歳と記されていることが確認され、生年を永禄8（1565）年に求める説が有力となっている。石田三成が永禄3年生まれと伝えられるから、吉継との年齢差という点でも重要な論点となる。

しかし、父親については詳しく述べてきていません。豊後大友宗麟の家臣大谷盛治の子とする説（豊後説）は、母親が「東」と確定する以前の通説であったが、吉継の活動実績からみても豊後が成り立たないことは明らかとなっている。



京都東山の青蓮院（HPより）



「略」収載の坊宮大谷家系図に吉継の名があることに注目し、吉継が坊宮家からおそらく母・東の縁故を通じて秀吉に仕官したのではないかと考えている。吉継の妹も青蓮院と縁故ある本願寺の坊宮下間頼亮の妻となっている。ただ、母・東の出自や、坊宮大谷家との関係は未詳。系図では父とされる泰珍についての情報が少ないなど、なお確度を高めるための研究も必要である。

しかし、病の兆候はすでに若年にして顕れていたらしい。石山本願寺を失い一時和泉貝塚に居た本願寺門主頼如意の側近が記した『頼如意人貝塚御座所日記』には、天正14（1586）年、堺で「千人斬り」（路上無差別殺人）が発生し、これが吉継の仕業という噂が流れたことが記されている。「悪瘡」（悪疾）と同義）に侵された吉継が、千人の血を舐めれば完治するという説を信じてやらせているというのが噂の正体であつたらしい。吉継22歳のことである。

「千人斬り」一件は秀吉の対応により真犯人が摘発され、吉継への疑いは晴れたのであるが、吉継を犯人とされる噂が広まるには、吉継の権威が広く知られているという条件がなくてはならない。ただ、同じ年、大坂城に秀吉を訪問したコレリョ（イエズス会日本布教の最高責任者）一行の饗應役に吉継の姿もあった（ルイス・フロイス書簡）。吉継の権威が事実とすれば、秀吉側近としてのその後の活動実績を見る限り、社会的差別とは無縁に、朋輩や秀吉配下の諸大名の厚い信頼を得ていくのである。

筆者は、江戸時代に青蓮院門跡坊宮の進藤為善が編纂した寺誌『華頂要』の大谷吉継邸を訪問した。吉継は第一

慶長2（1597）年9月24日、豊臣秀吉が徳川家康をともない、京伏見

ふくいの

福井県無形民俗文化財

池田助

分 前波 江 美 ビ な

裏山にある稻荷の大杉は県指定天然記念物として有名。社伝では天長二年（825）の頃、空海が白山に参籠の

折、当社に参詣し自作の像を寄進した  
とされていります。

例祭は「池田大祭」と呼ばれ、旧暦四月一の卯の日とされていましたが、

現在は六月九日から十一日。中日には

午前中に祝詞奏上、玉串奉奠が厳かに行われ、その後浦安の舞の奉納と大人

神輿と子供神輿の渡御があり、威勢よくにぎやかに町内を巡幸。秋季例祭は

十一月七日（旧暦九月七日）、稻荷大  
神の影向された日として、豊作に感謝

し、氏子は初穂と小豆餅を供えます。

池田追分けの奉納踊り

「追分」とは民謡「追分節」の約。「も

と中山道と北国街道との分岐点である信濃追分の宿駅で唄った馬子唄。また

その各地に伝わったものの総称。悲哀を帶び、声を長く引いて唄うものが

卷之三

踊る

男踊りを

易經

卷之三

さて、池田追分けの特徴は、まず太鼓や笛などの鳴り物がなく、提灯を飾りたてた屋台の横で、もつぱらのど自

池田追分けの芸能

典型。越後追分・松前追分・江差追分などが知られる（「広辞苑」）とされ、県内には福井市高柳の舟橋追分、福井市高屋、坂井市丸岡町一本田、永平寺町松岡芝原・下合月の追分、坂井市三国町崎の追分踊りなど、主に嶺北地方で伝えられてきました。

当時の池田追分けの発祥の由来は不明ですが、山田・向山割谷にある池田氏館の城主、楠氏の末裔とされる池田勘解由左衛門が朝倉氏に臣従して池田郷の領主となつて繁栄をした頃からすれば、優に四百年にわたり歌い踊り継がれてきたものと言われています。追分の他に「江州踊り」「やんしき」「ちよいやさ（松阪踊り）」「小原節（越中おはら）」があり、なかでも「江州踊り」は滋賀県日野八幡の木地師によって伝播したとされ、「木地師たちは享保の頃（1703）池田で稼業し製品を日野八幡に送っている記録が残っているので、この頃に教えられ、以後ずっと踊り歌われて伝えられた」（『池田町史』）のです。

慢の音頭取りの巧みな素歌にあわせて  
テンポよく踊り子たちは円陣を作つて  
右回りに輪踊りを展開。男踊りと女踊  
りがあり、豊作を感謝して男は俵をか  
つぐ仕種を、女は餅搗きの臼どりの所  
作をし、振り出し（前振り付け）と差  
し（後振り付け、上地区・下地区の2  
種あり）の二つの振り付けがあり、男  
は下駄を勇壮活潑に踏み鳴らし、女は  
男に調子を合わせ、しなやかに踊ります。  
す。また、戦前は花笠や頬被り姿が見  
られましたが、現在は普段着や法被、  
浴衣、和服など、一定していません。  
池田邊分けの一節（池田台詞・上地

池田は四拾と八ヶ村 峰谷々の  
村々を 教えてここに舞い納む 幾  
代目出度し魚見川 この源はあくは  
俣 元は池田の杉谷も つにこの  
ふもとにあります 唐木の山を眺  
めれば 金が出るやら金山村と 親  
しき中出もいでなされ (中略)  
最後には抽選券がまかれ、たくさん  
の景品が配られて、午後4時につれて  
終了。11日には午後4時から子供相撲

の奉納と、同7時から越前市ループの太鼓グランピングが開催され、品よく踊る参加者

ぎやかに  
流れが  
す。



音頭取りの美声で、品よく踊る参加者

# 若狭の食彩（四）

## 伝統行事の食と信仰

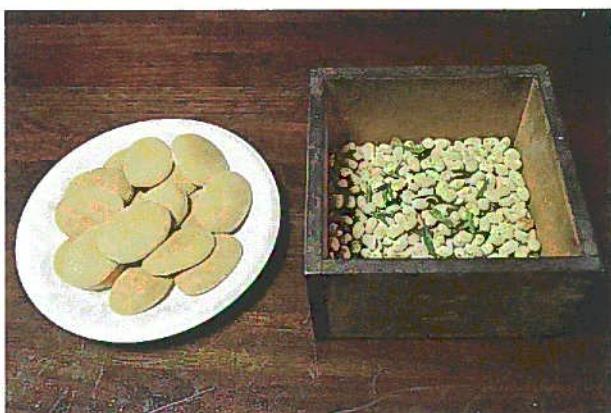
若狭は多くの伝統行事があり、食と深く関わっています。特別な日は、神仏に供物をささげ、お下がりを皆でいたくことが基本ですが、伝統行事の食は、何か特定のご利益があると伝えられている場合があります。例えば、近年人気の節分の恵方巻きをはじめ、ドンド焼きで焼いた餅を食べると一年無病息災でいられるなど、様々なものがあります。今回は、「伝統行事の食にまつわる信仰をいくつか紹介します。

### 節分の豆と小判菓子

かつては、鬼が来ないよう各家中鰯などの魚に力ヤやヒイラギの葉、髪の毛を竹串にはさんで門口にさしていました。また、現在では多くの家で姿を消しつつありますが、力ヤの葉一枚ずつちぎり、囲炉裏にくべて「ノミの口」、ブトの口、マムシの口」など農作業の害虫などの名前を言いながら豆を炒る地域も多くありました。

炒った豆は神棚に供え、年の数よりも多く（年の数の場合も）食べ、豆まきに用います。この豆は、初めて雷が鳴った時に食べると雷よけになると多くの地域で伝えられています。

小浜市小浜地区では、節分に八幡神



豆と小判菓子

社におまいります。この時、一部の家では、年の数の豆を半紙で包んで体の良くなりたい部分などを、神棚に供えます。かつては道の四辻に豆を置いたそです。さらに同市内では、小判菓子と豆を神棚に供え食べる地域があります。小判菓子は、この時期に販売される小麦粉でできた小判型の菓子です。詳しい由来は不明ですが、一生お金に困らないようにという願いが込められています。



ネハンダンゴ（涅槃団子）

この団子を食べると一年間無病息災だといわれています。さらに、小さな袋に団子を入れ、持ち歩くとマムシにかまれないと伝える地域（小浜市内調査、『三方町史』など）もあります。

こうした食は、他の行事や普段の食とは異なる楽しみを与えてくれます。身近な行事の食に改めて目を向けてみるのも楽しいものです。

旧暦の二月一五日は釈迦入滅の日で、寺では二月または三月に涅槃会と呼ばれる法事が行われます。涅槃会では、ネハンダンゴやハナダンゴ、ハナクズと呼ばれる団子を作り、団子をまいり、家に配るなどしています。

この団子は、赤、黄、緑、青などの色粉で色をつけて作ります。檀家らが集まって作ったり、檀家から集めた材料やお布施で寺の人を作るなどします。



コンニャクの煮物

### ネハンダンゴ（涅槃団子）

### 庚申講とコンニャク

小浜市小浜飛鳥と香取区では、庚申講が行われています。庚申の日は、人が寝ている間に体内にいる三戸の虫が抜け出し、天帝に日頃の罪を告げると考えられていました。これを防ぐため、人々が集まり徹夜をしていました。

毎年七月頃に行われる例祭では、コンニャクの煮物を作り、庚申堂前で販売されています。このコンニャクを無言で食べると今夜苦（コンニヤク）にならず、一つだけ願い事がかなうと伝えられています。



安永戊戌暮冬寫  
應舉

## 狗子図 一幅

まるやま おうきよ  
円山応挙 筆

雪原に、こゑこゑとした子犬達  
が三匹、遊び疲れたのかちよこん  
と座り込んでいます。次は何して  
じやれようか。そんな犬達の会話  
や思遣いも聞こえてきそうです。

筆者の円山応挙（一七三三～一  
七九五）は、丹波国穴太村の農家  
の子として生まれました。幼名は  
与吉、のちに岩次郎、通称は左源

太、のちに主水を使用しています。  
諱は氏、のち応挙。字は仲選また  
仲均。号には、一囁、夏雲、仙領  
などがあります。狩野派の絵師・  
石田幽汀に入門したのち、幅広い  
画法を吸収し卓越した技術を身に

つけ、当時としては先進的で写実  
的な画風が人々に受け入れられ、  
円山派の始祖となりました。

応挙は初め、京都出身の琳派の  
絵師・渡辺始興（一六八三～一七  
五五）の影響を受けた子犬の図を  
描いていますが、応挙自らの「か  
わいい子犬」の描き方スタイルが  
確立する安永期（一七七二～一七  
八〇）に描かれたものの中で、最  
も典型的であると言われるのが、

市立博物館が所蔵するこの「狗子  
図」です。「応挙の子犬」は江戸  
時代絶大な人気を博し、これ以降

数々の絵師達が応挙スタイルの子  
犬を描くようになるほどでした。

それにもしても、数ある「応挙の  
子犬」の中でも、敦賀市の「狗子  
図」が一番可愛いなんて、図々し  
い事は大きな声では言えませんが、  
最上位あたりの可愛さ、くらいは  
言つてもいいのではないかと思う  
のです。

ただ丸々として可愛いだけでな  
く、そこには生き物の骨骼をも意  
識して描く、応挙が重んじた「写  
生」の精神が生かされ、この小さ  
き者達を、時代を飛び超えた「か  
わいい」存在にしています。

参考文献  
府中市美術館編集

『かわいい江戸絵画』  
一〇一三年発行

□縞本淡彩
□縦45.2cm 横64.4cm
□安永七年（一七七八）
□落款 安永戊戌暮冬寫／応挙
□印章 「応挙之印」白文方印
「仲選」白文方印

# 情報ファイル

第6回若狭路文化研究会フォーラム

## 「産小屋と産育」開催

若狭路文化研究会（金田久壇会長）は当財団と共に、6月6日に敦賀市のプラザ萬象でフォーラムを開催しました。「若狭湾沿岸の産小屋資料集成」（若狭路文化叢書第十一集）の刊行を記念したもので、板橋春夫氏（国学院大学兼任講師）が「産屋習俗と女性の共助」の演題で基調講演、続いて、高早恵美氏（敦賀市立博物館学芸員）、多仁照廣氏（元敦賀短大卒）、佐野裕子氏（滝沢助産院助産師）、安井眞奈美氏（天理大学教授）、金田久壇氏のパネリストによるシンポジウムが行われました。

国の選択無形民俗文化財に指定されている「若狭の産小屋習俗」について、民俗学の見地からだけでなく、助産や女性史など幅広い観点からの研究を行ない、それを現代に生かしていくことの重要性が活発に議論されました。

## 就任ご挨拶



公益財団法人  
げんでんふれあい福井財團  
理事長 前川 剛  
芳士 よしのり

先の評議員会及び理事会で選任され、7月1日付けで理事長に就任いたしました。

当財団は、平成9年の設立から今年で18年目を迎えました。平成24年には公益財団法人の認定をいただき、おかげさまで、本県の文化の振興とふれあいとゆとりのある地域づくりに、微力ながらもお手伝いできる財団として定着することができました。

原子力発電を取り巻く情勢は大変厳しいものがあり、当財団の運営も厳しさを増してきておりますが、今後とも、県、市町、文化団体等と連携して、地域文化の更なる振興に取り組んでまいりたいと考えています。一層のご指導、ご支援をいただきますようお願い申し上げます。

## 平成27年度財団助成事業を決定

当財団では毎年、県内の文化団体等の事業活動に助成しています。3月26日及び5月15日に選考委員会を開催し、39団体(新規の団体は12団体)に684万円の助成を決定しました。

### 《平成27年度財団助成事業》

事業区分	団体数	助成額(千円)
市民文化団体等活動助成	11	1,530
文化のまちづくり助成	4	460
ボランティア団体活動助成	4	380
市民参加型芸術文化助成	3	680
郷土の歴史、文化の保存・伝承活動助成	12	1,240
芸術公演助成	3	670
環境保全等地域づくり助成	1	80
福井県高等学校総合文化祭等育成支援	1	1,800
計	39	6,840

## 平成27年度事業計画及び予算を決定

当財団の平成27年度事業計画及び予算が3月13日開催の理事会、評議員会で可決、承認されました。

### 《主要事業及び予算額》

- (1) 地域文化の振興等に関する事業 ..... 11,470千円  
文化団体等の活動支援  
福井県高等学校総合文化祭支援  
ふくい風花隨筆文学賞特別協賛  
福井県かきぞめ競書大会特別協賛  
若狭路民俗文化等の継承・保存事業 等
- (2) ふれあい及びゆとりの創造に関する事業 ..... 3,900千円  
文化講演会の開催、音楽会等への協賛  
芸術公演等への支援  
環境保全実践団体への支援 等
- (3) その他の事業 ..... 2,156千円  
広報誌「げんでんふれあい福井」発行 等

## 編集後記

6月9日から3日間、池田町の須波阿須疑神社で例大祭があり、県の無形民俗文化財「池田追分け」が披露されました。一般の方も加わり、大きな踊りの輪ができました。リズム感あふれる小気味いい踊りは、踊る人だけでなく見る側も楽しもありました。

夏本番を迎える8月は県下各地で盆踊りをはじめ、お盆の伝統行事がたくさん行われます。お訪ねください。

次号は来年1月に発刊の予定です。ご意見、ご要望をお聞かせください。

創作活動でお忙しい中、陶芸家の吉田豊一様に巻頭エッセイを執筆していただきました。お礼申し上げます。

# — 財団助成事業の日程等 —

8月以降に開催され、一般の方も参加（鑑賞）できる事業の主なものをご紹介します。是非、ご参加ください。  
期日等は変更されることがありますので、事前にご確認ください。

事業名	場所	期日	照会先
きらきら寄席	おおい町 里山文化交流センター	8/2 13:30~	☎ 090-3274-9428 (名田庄落語を楽しむ会 中野)
県指定無形民俗文化財 「福谷大火勢」	おおい町福谷	8/14~15	☎ 0770-78-1621 (福谷大火勢保存会 中川)
県指定無形民俗文化財 「菅浜精靈船送り」	美浜町菅浜海水浴場	8/15	☎ 0770-37-2680 (菅浜区 中嶋)
真舞流真鶴吟舞道会 第5回吟舞のつどい	越前市文化センター 中ホール	8/23	☎ 0778-22-6414 (真舞流真鶴吟舞道会 松永)
九龍社創立60周年記念 第56回書道展	福井県立美術館	9/18~20	☎ 0776-22-4617 (九龍社 前川)
観月の夕	ハーモニーホール福井	9/26	☎ 0776-38-4383 (麻生津公民館 増永)
ふくい県民総合文化祭 第35回福井県市町文協選抜美術展	越前町生涯学習センター	9/26~28	☎ 0778-34-2000 (越前町文化協議会 高木)
第25回福井県市町文協選抜芸能祭	美浜町生涯学習センター なびあす	9/27	☎ 0770-32-1212 (美浜町教育委員会 山本)
たちまち近松まつり	鯖江市立待公民館	10/3	☎ 0778-51-3376 (立待公民館 吉本)
エリア0 10周年記念コンサート	おおい町 里山文化交流センター	10/3 18:00~	☎ 090-3291-7383 (NPO法人エリア0 中野)
矢筈うたごえサークル 15周年コンサート	美浜町生涯学習センター なびあす	10/4	☎ 0770-32-5439 (矢筈うたごえサークル 高木)
福井市指定無形民俗文化財 「オシッサマのお渡り」	福井市本堂 高雄神社	10/10~11	☎ 0776-37-1234 (安居公民館 円光)
勝山スポーツダンスクラブ 25周年記念ダンスパーティー	勝山市交流センター	10/11	☎ 0779-87-0605 (勝山スポーツダンスクラブ 北川)
聖観世音菩薩開帳大祭	若狭町無悪 無惡觀音堂	10/18	☎ 0770-64-1516 (無惡区 野田)
太鼓のひびき	鯖江市文化センター 大ホール	10/25	☎ 090-1635-4588 (さばえ太鼓協会 近藤)
第5回(一社)日本美術家連盟 北陸地区会員展	福井市美術館	11/7~12	☎ 0776-24-5702 ((一社)日本美術家連盟 小原)
梅田雲浜顕彰(生誕200年記念) 全国吟詠大会	小浜市文化会館 大ホール	11/14	☎ 0770-57-1761 (実行委員会 宮本)
国指定重要無形民俗文化財 「敦賀西町夷子大黒綱引き」	敦賀市相生町(旧西町)	H28年1/17 12:30~	☎ 0770-22-0941 (夷子大黒綱引保存会 大道)
長唄 四季の敦賀 邦楽・舞踊の会	敦賀市 プラザ萬象 能楽堂	H28年1/31	☎ 0770-24-2202 (西崎流みやび会 林田)
第29回鹿谷町雪まつり (鹿谷町文化祭)	勝山市鹿谷町 鹿谷小学校 鹿谷公民館	H28年2/14	☎ 0779-89-2111 (鹿谷公民館 長谷川)
第3回ダンスフェスティバル in Wakasa	小浜市文化会館 大ホール	H28年3/6	☎ 0770-56-0344 (実行委員会 重田)

## 財団イベント INFORMATION

ビートフェニックス 2015	出演者 C&K 超特急	SKY-HI 他	10/12(月)	福井フェニックス プラザ大ホール	福井エフエム放送主催 財団協賛
-------------------	-------------------	-------------	----------	---------------------	--------------------